

日本語文法学会・運営改善のご提案

日本語文法学会会員のみなさまへ

日本語文法学会会長・金水 敏

2011/11/21

1 はじめに

日本語文法学会は本年で創立 12 年目を迎え、会員は 641 名（うち、学生会員 126 名。2011 年 8 月 31 日現在）となっております。学会誌には毎号、会員による水準の高い論文が掲載されるとの評価をいただいております。また大会では活発な議論が戦わされ、今年からチュートリアルが導入されるなど新規な企画も試みられております。これら学会活動の充実は、ひとえに会員のみなさまの深いご理解と真摯なご協力のたまものであると、執行部一同感謝しております。

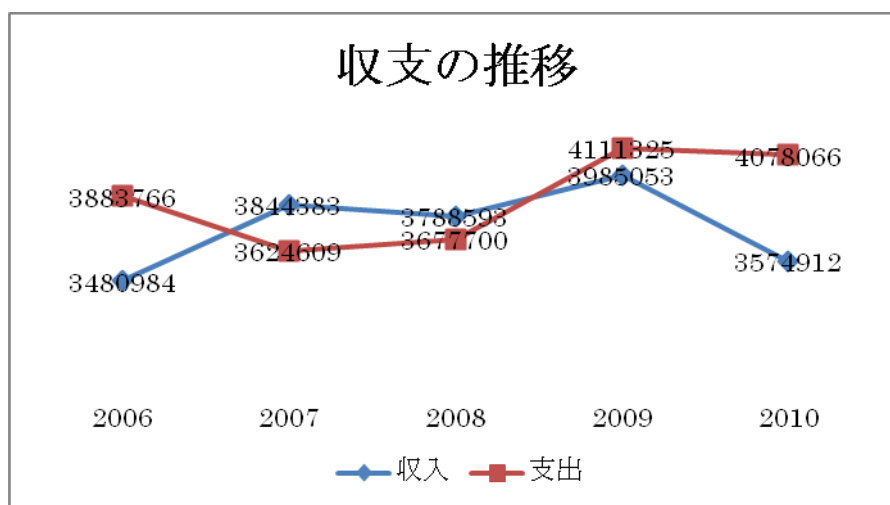
さて、一方で創設後 10 年を越え、社会状況の変動や学会を取り巻く諸事情の変化とともに学会運営に関するさまざまな課題も浮き彫りになってきました。執行部では、今後の学会の発展のためにも、現時点における思い切った運営システムの改善策が必要であると考え、その概要を学会員のみなさまにご提案申し上げる次第です。以下の節で私どもが問題と考える点を列挙し、続く節でその改善案を提示させていただきます。

2 課題点

2.1 収支バランス

最も大きな課題は、収支のバランスが崩れ、赤字予算・決算が持続する傾向にあることです。過去 5 年間の収支の推移をしめしたグラフ 1 をご覧ください。

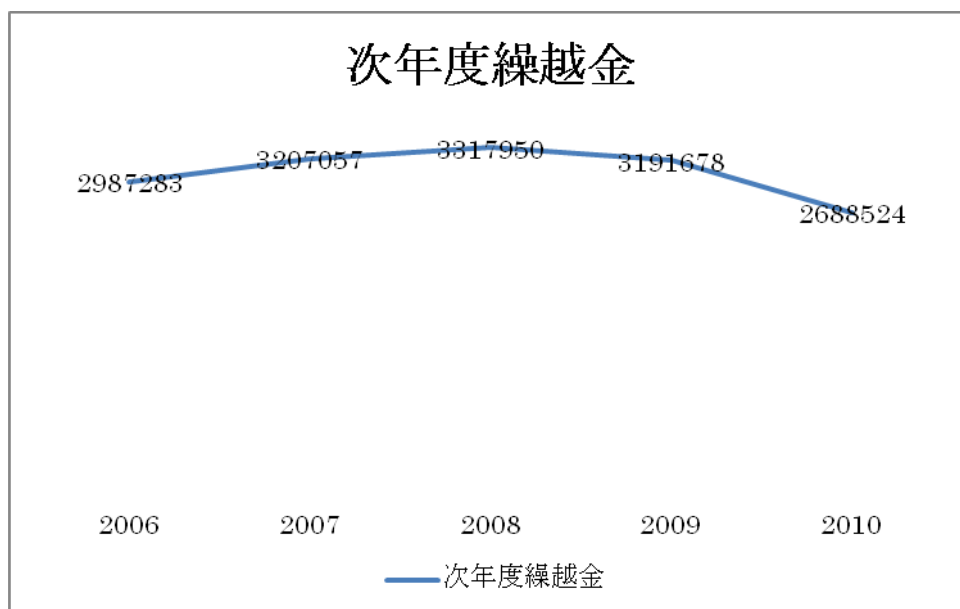
グラフ 1



2010年に大きく支出が上回ったのは、現執行部の至らないところではありますが、事務引き継ぎのための諸経費がかさんだこと、評議員の選挙費用が必要であったこと、大会が岡山市で行われたために論文集の売り上げ等が伸びなかったこと、そして慢性的な会員数減少の傾向が重なったことが原因としてあげられます。支出としては前年比で減少しておりますので、収入減が大きく響いていると言えるでしょう。2011年は、いくつかの状況は改善される見通しですが、東日本大震災のために会費免除の措置を執ったこと（約10万円の収入減）もあってやはり赤字予算となる見通しです。

幸い、会員のみなさまのご協力と歴代執行部のご努力により、現時点で250万円を越える繰り越し金があるため、持ちこたえておりますが、繰越金は学会誌刊行のための資金でもあり、またこのまま赤字がかさみますと、ほどなく繰越金を使い果たすという危機も避けられません（毎年、最悪50万円の赤字が続くと、6年で破綻）。次年度繰越金の推移を示すグラフ2をご参照ください。

グラフ2



2.2 事務システムの非効率性

このことは、先にのべた支出増と深く結びついているところですが、現在の事務システムは大会運営や選挙書類の郵送等の業務のためにアルバイトを多数雇用する必要があり、人件費や郵送費がかさむしくみになっています。また、学会誌、大会準備等の業務が煩雑なために、うっかりミスで会員のみなさまにご迷惑をおかけする事態もいくつか出て参りました。

本学会では専従の事務担当者を雇用せず、大学教員が無償で事務処理に当たっておりますが、もはやこのやり方も事務量から見て限界に近づいており、執行部の本務にも支障を来しかねない状況です。このままでは、次代の執行部を引き継いでくださる方を探すのも困難な状況です。

2.3 会員数の減少

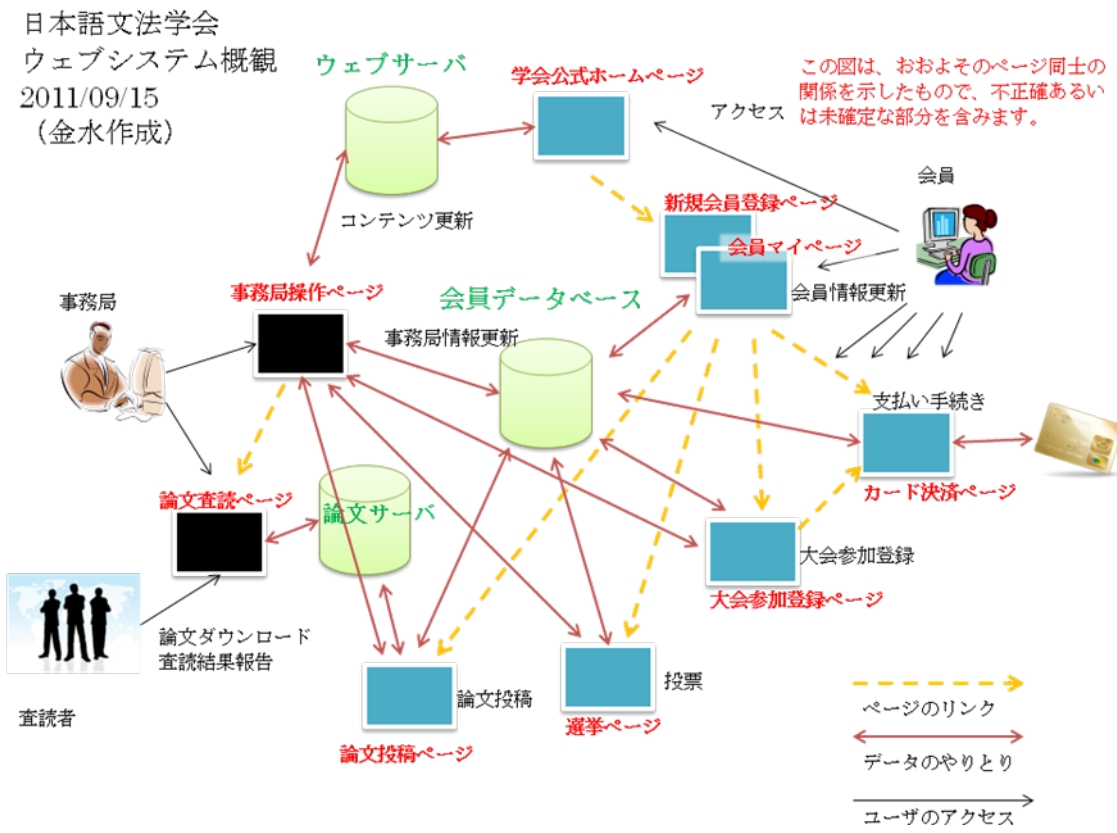
一時は700名にせまる会員数でしたが、近年、減少傾向にあり、増加・安定に転ずる兆しは見えません。これはもちろん昨今の社会・経済状況が大きく影響しており、なにより日本語学専攻の学生・院生

が減少していること、また進学しても学会に入会しないことが増えているためと考えられます。これは一学会の努力によって改善される事態ではありませんが、海外を含めて学会員の幅を広げること、また学会員にとって利用しやすく有益な事業を展開することで魅力あり活気ある学会としていく努力が必要であることは言うまでもありません。

3 対策のご提案

3.1 ウェブページの刷新

前節で述べました課題の克服の有効な手段として、現執行部では、ウェブページの全面的な刷新によって、事務処理を大幅に効率化することを考えております。その全体像をイラストでお示しします。



※「論文査読ページ」は今後の導入を検討しています。

以下に、その要点を列举致します。

1. 公開ホームページの刷新
現在公開中のホームページを、明るく機能的なデザインに刷新し、学会の情報を学会内外にビビッドにお知らせしていきます。また、学会員向け掲示板などインタラクティブな機能も取り入れて、学会員にとってより有用なページにしていきます。
2. オンライン会員データベースの構築と会員マイページの設定
現在、パソコン上で処理している会員データベースをサーバ上に置き、会員がIDとパスワードで入る会員マイページと直結させます。会員は現在の会員種別や学会費の納入状況等を逐次マイページ

で知ることができ、またメールアドレス、住所等の個人情報をオンラインで修正することができます。

3. 学会費等のカード決済

会員マイページから、学会費等をクレジットカードによるオンライン決済で支払うシステムを取り入れます（ただし、VISA と MASTER に限定）。このことによって、支払い業務の面倒さが軽減され、学会費の払い忘れ等を防止することができると思います。また、海外の学会員にとっても大きな利便性をもたらします（なお、従来のゆうちょ銀行への振り込み方式も残します）。

4. 投稿システム

学会誌および大会の発表申し込みを、会員マイページ経由でウェブにより行うこととします。この結果、会員資格と投稿・発表申し込みの関連の曖昧さが解消され、また受け付けられたかどうかという会員の不安を解消し、事務局にとっては投稿・申請の見落としを防ぐ効果があり、双方にとって大幅な利便性がもたらされます。

5. 選挙システム

2年に一度、有資格会員全員を被選挙人とする評議員選挙は、事務作業が繁雑で、郵送費、アルバイト費用もかかり、執行部にとって大変な負担となっておりました。今回、この選挙をオンラインで行うこととすることにより、事務処理の確実性やスピードが大幅に増すこととなります。

6. 会員検索機能

従来発行しておりました、冊子体の会員名簿を廃止し、会員マイページ経由で会員検索ページに入れるようにします。名前、所属等さまざまな観点から会員情報を検索することができます（会員が公開を認めた情報のみ提供されます）。

7. メーリングリストの充実

オンライン会員データベースと連動して、会員を対象とするメーリングリストを活用していきます。学会誌情報、大会情報、会費情報等、会員にとって必要な情報を的確に会員にお知らせしていきます。

以上、現在計画中のシステムは、完成すれば日本の言語系ではもっとも先進的で利便性の高いものとなる予定です。改修の時期は、公開ホームページ、会員マイページ、決済ページ等は 2012 年 3 月からの開始を予定し、残りのシステムについては 2012 年度上半期中の完成を目指します。

3.2 事務処理代行の導入

ウェブページの刷新と平行して、現在総務委員が行っている会員関連、会計関連の機械的な事務処理を、専門業者に委託します。これによって、事務処理の正確性、機敏性が増し、会員にとって有用であるのみならず、事務局を引き受ける側にとっても、物理的・心理的負担が大幅に減少されます。

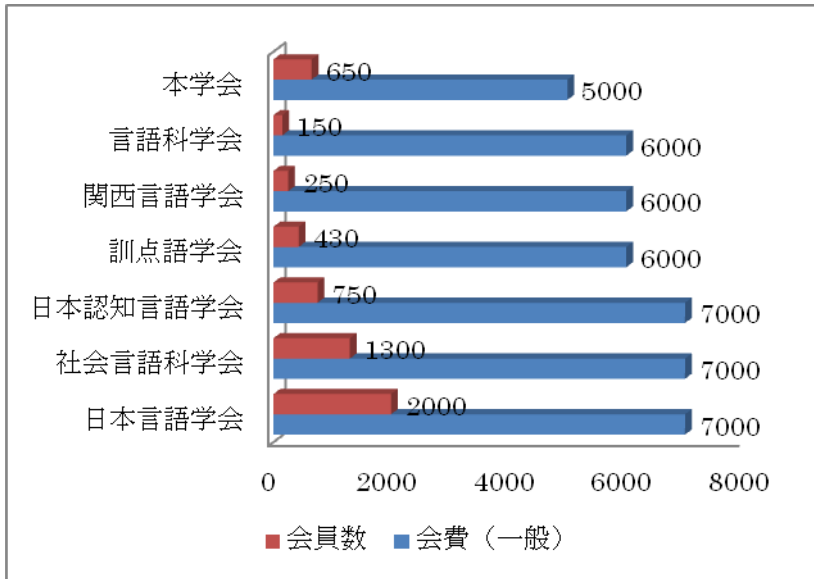
3.3 会費の改訂

さて、以上の改善策によって大幅に会員の利便性が増し、また事務局の負担が減少するものと期待されますが、やはり経常的な財源不足には別途根本的な対策が必要となります。現在、学会の主たる収入源は学会員の年会費と、大会における論文集の売り上げです。後者については、通常の学会活動に付随

的なもので、増収の対象とはしにくいところがありますので、やはり学会費の値上げは避けられないものと考えます。

現在の学会費は、通常会員 5,000 円、学生会員 4,000 円となっています（ODA 対象国の会員はさらにその半額）。通常会員の会費で見ますと、関連の日本の言語系学会のなかでは格段に安い部類に入ります。グラフ 3 をご参照ください。

グラフ 3



本学会の会費は、創設以来値上げを行っておりませんが、学会の規模とサービスの質からみて、値上げは決して無理なお願いではないことがおわかりいただけるかと思えます。今回の年会費の改定案は、下記のとおりです。

- 一般会員：6,500 円（1,500 円値上げ） 学生会員：4,000 円（現状据え置き）
- （ODA 対象国の扱いは維持。ただし 100 円以下の端数は切り上げて 3,300 円とします）
- （維持会員（一口 10,000 円）の設定も維持）

グラフ 3 を見ますと、会員数と会費はゆるやかに相関していることが分かります。日本語文法学会の会員数は訓点語学会と日本認知言語学会の間に位置しますが、この点からも、会費を両学会の中間の 6,500 円とすることはさほど無理なことではないと言えそうです。

3.4 必要経費と収支改善の見通し

ウェブページの刷新に関わる一時経費は、693,000 円との見積もりを得ており、これは繰越金から支出します（機能の追加等によって若干増加する見込み）。

学会費の値上げにより、単純計算ですが、年間約 75 万円余りの増収が見込まれます。

事務処理代行費用は、学会員一人当たり年間 850 円となる見込みで、会員数 650 人として年間 552,500 円、またウェブページの維持・管理費は 70,000 円で、併せて年間 622,500 円の支出となります。また、

クレジットカード決済の導入により、最大 5%の手数料が発生します。これを多めに見積もって 162,500 円と計算しました。これらの支出増を合計すると 785,000 円となります。これは、会費値上げ分より若干大きい数字ですが、選挙事務の合理化等によってアルバイト費用、郵送費、印刷費が大幅に削減されるため、大旨、健全な収支バランスとなるものと考えています（選挙事務費の削減は一年当たり 135,000 円程度）。

4 さいごに

以上のご提案は、現時点において最善の策と考えております。会費値上げという、会員のみなさまの痛みを伴う提案となったことは大変申し訳なく思っておりますが、今後一層の学会の発展のために、ご理解を賜りますよう、お願いを申し上げます。 (以上)